



ラ・サール学園

ラ・サール高等学校／中学校

学 校 案 内

令和9年度
(2027)



「ファミリースピリット」 〜鹿児島地で代々受け継がれる精神〜



校長 アントニオ・クビヤス

本学園はラ・サール高等学校とラ・サール中学校から成り立つ男子生徒のための学校です。高等学校は昭和25年に、中学校は同31年にカトリックの教育修道会ラ・サール会によって鹿児島市小松原に設立されました。

本学園の名称は聖ジャン・バティスト・ド・ラ・サール師に由来します。師は1651年、フランスに生まれました。学校教育による社会の改革を志し、家財や栄職を捨てて、その生涯を青少年の教育に捧げ、教育の色々な面で貴重な仕事を残しました。ラ・サール師の遺志を継ぎ、師になって天職として教育に従事する人々の集まりがラ・サール会であります。現在ではこの会によって世界80カ国以上で、1000余の各種の学校が経営され、修道士の総数は4000人をこえています。日本では本学園のほかに函館ラ・サール高等学校(昭和35年設立)、函館ラ・サール中学校(平成11年設立)があります。本学園には「創造性と気品があり、絶えざる向上心と、貪欲に学ぶ気持ちを持つ」生徒と、「常に積極的で、意欲的な」教師が在籍しています。「カトリックの精神に基づく人間教育」を柱として、信仰と信頼、隣人愛、奉仕、正義、献身、アカデミックで質の高い教育といったラ・サールファミリーの価値観に基づく教育を行います。



La Salle

KAGOSHIMA

学校案内

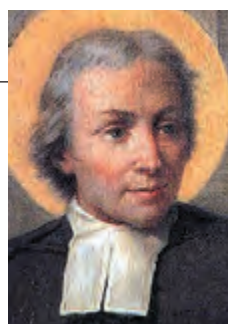
CONTENTS

- 04 ラ・サールの5つの特徴
- 06 学習指導について
- 08 学園の施設
- 09 部・同好会
- 10 学校行事
- 11 ラ・サール生の1日
- 12 ラ・サール学園の寮生活
- 14 在校生インタビュー
- 16 OBインタビュー
- 17 ラ・サール生のつとめ
- 19 教育課程
- 20 大学入試実績
- 21 保護者現住所、部活動加入率
- 22 入試統計・日程・経費
- 23 学園について寄せられるご質問

教育方針

本校は教育基本法に基づき、ラ・サール会によって、創立され維持されています。

1. キリスト教の広く豊かな隣人愛の精神を養います。
2. 新時代の人間としての世界への広く正しい認識を培います。
3. 心と体と頭の調和のとれた、社会に役立つ人間を育てます。
4. ひとりひとりの能力を最大限に伸ばします。



聖ジャン・
バティスト・ド・ラ・サール
(1651~1719)

現況(令和8年度)

中学校(男子のみ)／[学級数]12 [定員]480名

高等学校 全日制普通課程(男子のみ)／[学級数]18 [定員]720名

理事長／野田健太郎

校長／アントニオ・クビヤス

01 キリスト教の精神をもつ学校

隣人愛の精神をはじめとする人間教育を基盤とした、社会において信頼され、献身的に活動する人間性豊かな人材の育成を目的としています。中学の「倫理」、高校の「人間学」は本校独自の教科で、正しい社会生活のありかたの標準を示し、生徒が神・隣人・自分に対する義務を知り、それをよく実行するように教育するという目的をもっています。

▶詳細はP17「ラ・サール生のつとめ」参照



02 塾に通う必要がない。 ラ・サールでの授業だけで完結する 高い教科指導能力をもつ学校

本校は多数の志願者の中から選ばれた能力のある生徒の集まりで、学力の差が少ないために能率的な学習指導を進めることができます。6か年を通じて特色のある教育課程を組むことによってむだのない効果的な学習が行われます。教育課程の特色として、6名の外国人教師による英語の指導が中1～高3まで週2時間確保されています。

▶詳細はP18～20「学習指導、教育課程、進学実績」参照



03 部活や行事が充実した学校

体育祭・文化祭は盛大な名物行事です。冬は桜島を歩いて一周します。5月15日の聖ラ・サールの日とクリスマスには記念の催しがあります。11月には、クリスマスバスケットバザーが行われ、収益は国内外の支援を必要とする人々に贈られます。

▶詳細はP9～10「部活動」「学校行事」参照



04

全国から友が集まり、 お互いに刺激しあいながら切磋琢磨する学校

自宅から通学できない生徒のために、学校敷地内に寮の設備があります。家族的で規律正しい寮生活を通じて相互の理解と友情が育てられ、勉学の習慣が養われます。

▶詳細はP12「ラ・サール生の寮生活」参照



05

生徒・卒業生・教職員のきずなが強い学校

高い指導力を持つ先生が生徒をしっかり導き、師弟の強い信頼関係が築かれています。また、同窓生のつながりの強さも大きな特徴です。「同じラ・サール出身」という仲間意識が強く、人脈づくりがしやすいです。大学生活や就職での助力はもちろんのこと、仕事を始めてからも業界の違いを超えて助けてくれる先輩や仲間がたくさんいます。

▶詳細はP16「OBインタビュー」参照



本校の学習指導の取り組みは大きく分けて5つあります。

01 | 授 業



高校授業【数学】



中学授業【校長による倫理】



高校授業【ブラザーによる人間学】



高校授業【外国人教師による英語】



中学授業【美術】

本校はダブルスクールを前提とせず、学校の授業だけで生徒の進路を実現させます。そのため、授業をいちばん大切にしています。数学や英語などの科目は授業で扱う内容については事前に予習することを前提として、授業は1回目の復習と考えています。また、習熟度によるクラス編成は行わず、全員が同じ内容の授業を受けます。

02 | 朝読書・朝テスト・各種小テスト



図書室ではOBの著書など、読み応えのある本を多く取り揃えています



朝読書の様子

登校した生徒たちは、中学は読書、高校は朝テストに取り組みます。朝テストは前週に学習した基本的な内容の確認が目的です。また、随時各種小テストを行い、学習内容の定着をはかります。

03 | 定期考査・実力考査

本校では3学期制をとり、その学期毎に中間考査・期末考査を行います。これに加え、4・6・8・11月に実力考査を行いますので、ほぼ毎月考査を受けることになります。これらの考査の対策を通じて1か月分の授業内容を整理して定着させることができます。また、毎月考査があるため、試験範囲が広くなりすぎず、出題も試験範囲をまんべんなくカバーしているので、生徒は効果的に実力を高められます。



04 | 週テスト

高校2年の2学期からは「週テスト」を定期考査・実力考査と並行して行います。定期・実力考査とは別に試験範囲が設定され、生徒たちは自分たちで計画を立て、試験に臨みます。高校3年では、5教科の週テストが1回120分、週2～3回、1・2学期あわせて50回(5教科×10回)行われます。週テストに向けた勉強とその復習を通じて、生徒たちは受験に必要な演習量を確保し、難関大学入試に対応できる実力を養います。



05 | 外部とのつながり



海外研修の様子



東京大学見学会の様子

学校や各学年が随時、さまざまな外部講師を招いて講演会を開き、生徒の視野を広げています。また、夏休みにはイギリスのイートン校、サンフランシスコのラ・サール会系列大学でのホームステイ、ハーバード大学寮での研修などの「海外短期研修」(年によって変動があります)や、本校OBを中心とした東大の先生方や学生の協力のもと、研究室見学や交流会を行う「東京大学見学会」を希望者を対象に実施しており、進路選択や自分の可能性を考え意欲を高めるきっかけになっています。

学園の施設

教室から桜島を望むことができる環境の中、6万冊をこえる本がある図書館、キャリアガイダンス室、情報教室などの学習施設や、広いグラウンド、50mプール、テニスコートなどの体育施設など充実しています。また、ミサが開かれる聖堂は、落ち着いた学習や生活の環境を支えています。

聖堂



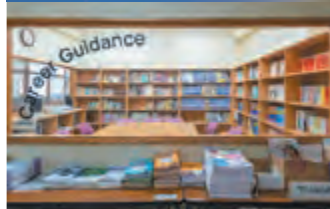
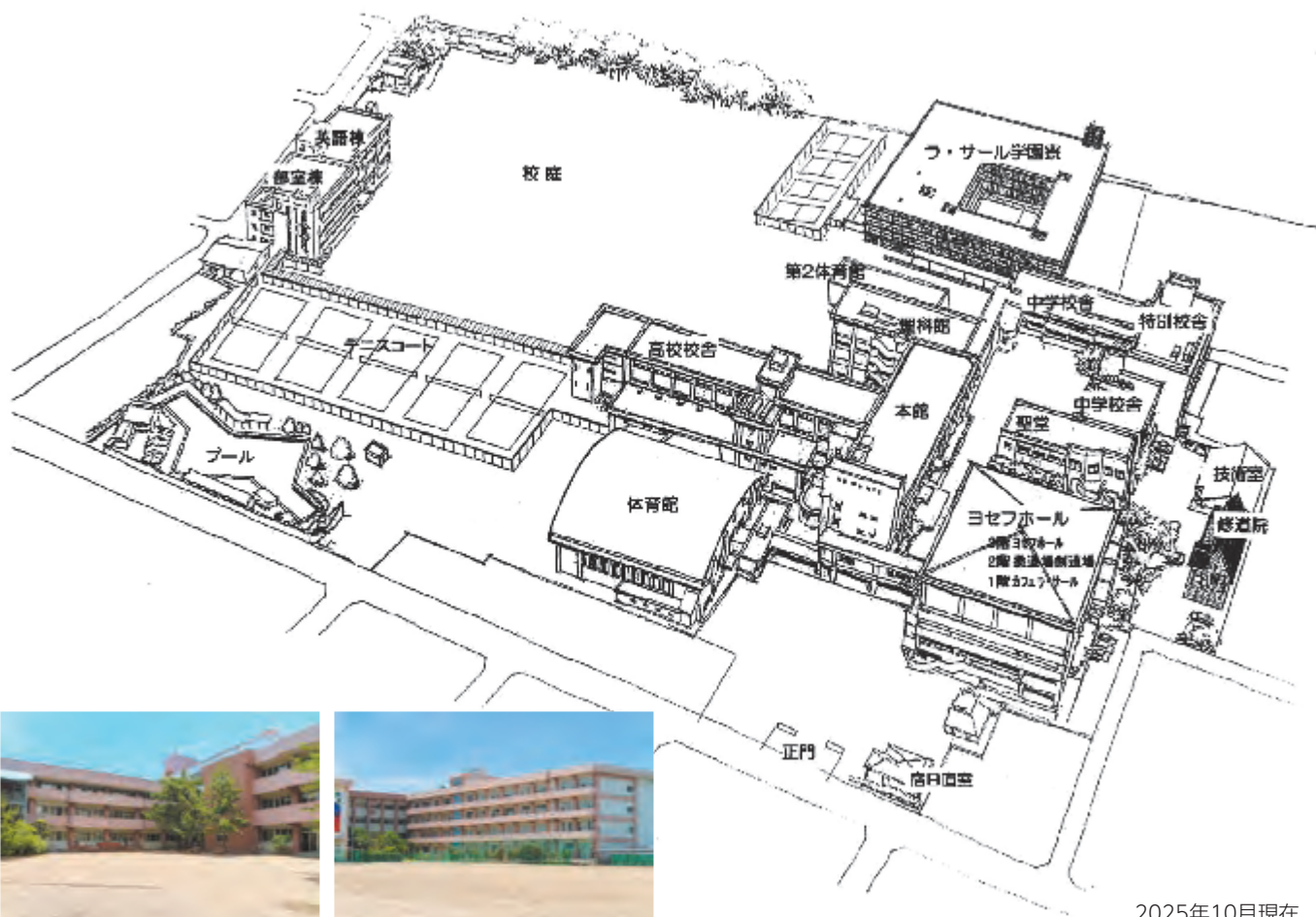
本館エントランス



図書室



キャリアガイダンス室



2025年10月現在

中学校舎



高校校舎



情報教室



購買部【ヨセフホール1階】



カフェ(食堂)【ヨセフホール1階】



グラウンドとテニスコート



陸上トラック



剣道場【ヨセフホール2階】



柔道場【ヨセフホール2階】



部・同好会

本校では創立以来、部・同好会活動を奨励しています。選手養成より、スポーツや文化活動を楽しむこと、および、それを通じて好ましい人間関係を育てることを目的としています。一方、市内や県下の大会等で好成績を収め、全国大会に出場する部もあります。



部・同好会一覧

部	中学校	剣道・柔道・弓道・空手道・バスケットボール・バレーボール・サッカー・軟式野球・テニス・卓球・水泳・体操・ラグビー・山岳・バドミントン・陸上・社会・化学・生物・地学・ロザリオ会・囲碁・将棋・園芸・文芸・写真・茶道・音楽・美術・ボランティア・マイコン・クイズ研究会・イングリッシュクラブ
	高校	剣道・柔道・弓道・空手道・バスケットボール・バレーボール・ラグビー・サッカー・硬式野球・テニス・卓球・水泳・山岳・体操・ハンドボール・陸上・バドミントン・ソフトテニス・地理歴史・化学・生物・地学・文芸・演劇・囲碁・将棋・写真・ロザリオ会・茶道・美術・音楽(金管合奏・男声合唱)・園芸・映画・ボランティア・マイコン・英語ディベート・クイズ研究会
同好会	中学校・高校	鉄道研究会・ロボット研究会・数学研究会・模擬国連研究会・言語学研究会

学校行事

体育祭・文化祭・クリスマスバスケットバザーの三大大行事の他に、発達段階に応じた様々な行事を行います。

また、生徒が中心となって様々な行事の運営を行うことも本校の大きな特徴です。生徒会執行部や各行事の実行委員はよりよい行事にするために友人や先輩と協力しながら頑張り、それによって大きく成長します。

4月

- 入学式
- オリエンテーション
- 健康診断
- 身体計測
- 実力考査
- P T A 総会
- 中 1 宿泊研修



始業式・対面式



中学1年 4月の校外研修

5月

- 避難訓練
- 中間考査
- 聖ラ・サールの日

6月

- 文化祭
- クラスマッチ
- 実力考査
- 学年PTA(三者面談)



クラスマッチ



体育祭

7月

- 期末考査
- 高 1 野外活動
- 東京大学見学会(希望者)
- 海外短期留学(希望者)

8月

- 午前授業
- 実力考査
- オープンスクール



遠足



文化祭

9月

- 体育祭
- 中高生徒会長選挙
- 中 2 野外活動
- 中 3 修学旅行

10月

- 中間考査
- 遠足
- 入試説明会



クリスマスバスケットバザー



English Challenge

11月

- 観劇会
- クラスマッチ
- 実力考査
- 学年PTA(三者面談)
- クリスマスバスケットバザー
- 物故者追悼式

12月

- 期末考査
- 中学English Challenge
- 桜島一周遠行
- クリスマス祭

1月

- 入学試験

2月

- 高校卒業予餞式
- 中学弁論大会
- 中間考査



桜島一周遠行



高校卒業予餞式

3月

- 中高生徒会長選挙
- 学年末考査
- 終業式

2025年度実績

ラ・サール生の1日



登校風景



昼食時間は食堂や購買部が賑わいます



放課後は部活動や自習など有意義に過ごします

~8:10 登校

8:30~8:45 学級朝礼

8:50~9:40 第1時限

9:50~10:40 第2時限

10:50~11:40 第3時限

11:50~12:40 第4時限

12:40~13:15 昼食

13:20~14:10 第5時限

14:20~15:10 第6時限

15:20~16:10 第7時限

16:10~ 終礼・掃除
(6限授業の日は15:10~)



授業の様子①



授業の様子②



ラ・サール学園の寮生活

本学園では、自宅が遠方で通学できない生徒のために学園の敷地内に寮を併設しており、全校生徒のうち、半数近くが寮生活を送っています。

寮は、鉄筋コンクリート4階建てで、1階に職員室、事務室、食堂、洗濯場、病室等があり、2階から4階までの各階に中・高の寮室、自習室および寮教諭室等があります。

事務室では、郵便物・書留・荷物の受け渡し、生徒預り金の出納、通院する生徒の送迎などを行います。

寮教諭室では、寮教諭が寮生の生活・修学上のいろいろな問題について相談に応じ、助言を行います。

高校生は全員個室で、部屋にはベッド・机・椅子・本棚・ロッカーが備えつけてあります。また、各フロアに学習室が設けられています。中学生は共同部屋(8人部屋)で、高校と同じく各フロアに学習室が設けられています。

洗濯や食事などは寮の職員が担当し、寮生が学習に集中できる環境を整えています。



エントランス



居室(中学生／8人共同部屋)



居室(高校生／個室)



浴場



高校自習室



中学自習室

寮生の日課

■ 高校生

	平日	日曜・休日
随時起床	5:00	
居室点灯	7:00	
起床・ベッド整理	7:10	
点呼	7:15	
朝食	7:20~8:10	
登校	8:10(玄関施設)	—
昼食	12:40~13:10 (土曜12:40~13:30)	12:00~13:00 (12:40配膳カウンター閉鎖)
入浴	15:00~19:25 (土・日・祝日は13:00~15:00シャワー室使用可)	
夕食	17:30~19:00(18:45配膳カウンター閉鎖)	
点呼・一斉学習	19:30~21:00	
休憩	21:00~21:15	
点呼・一斉学習	21:15~22:45	
休憩	22:45~23:00	
選択学習	23:00~23:45	
消灯・就寝	24:00	

■ 中学生

	平日	日曜・休日
随時起床	5:00	
居室点灯	7:00	
起床・ベッド整理	7:10	
点呼	7:15	
朝食	7:20~8:10 (8:10までに食堂を退出)	7:20~8:00 (8:00までに食堂を退出)
登校	8:10(玄関施設)	—
義務自習	—	8:00~9:30
昼食	12:40~13:10 (土曜12:40~13:30)	12:00~13:00 (12:40配膳カウンター閉鎖)
入浴	15:00~19:10(土・日・祝日は13:00~15:00シャワー室使用可)	
夕食	17:30~19:00(18:45配膳カウンター閉鎖)	
点呼・一斉学習	19:15~20:15	
休憩	20:15~20:30	
点呼・一斉学習	20:30~21:30	
休憩	21:30~21:45	
点呼・一斉学習	21:45~22:45	
消灯・就寝	23:00	

(2025年時)

寮の年間行事



■ 入寮式



毎年、4月3日に執り行われます。この日に、新入寮生が初めて全員揃うことになります。

■ 寮クリスマス会



寮生が一堂に集まって食事をしたり出し物をしたりして、親睦を深めます。

■ 食事会



中学3年生が高校寮に移動する2月に、最後の親睦会として、各階ごとに実施しています。

■ 寮マッチ



各学期ごとに親睦を図ることを目的として、中学・高校別々で実施しています。

■ 卒寮式



毎年2月下旬の下宿移動前夜に実施します。

■ 寮防災訓練



年2回、火災を想定し、寮全体で訓練に取り組みます。

寮生の食事



寮生の献立は、管理栄養士がきちんと栄養バランスを考えて作っています。アレルギーがある寮生は、入寮時に管理栄養士と保護者が面談し、個別に特別食で対応します。寮生は、朝昼夕とも寮の食堂で摂ります。朝夕は自由席ですが、昼食は指定席になっています。席に食事が配膳されているので待たずに食べられ、限られた昼食時間を有効に使えます。



寮生たちは1日3食をこの食堂で摂っています



管理栄養士により栄養バランスに配慮されたメニューの一部



食事は各自配膳口から(朝・夕食)



美味しそうな食事が並びます



クリスマスメニュー



在校生インタビュー

ラ・サール学園で日々、頑張っている在校生たちに受験のきっかけや本校の魅力など聞いてみました。

徳久 佑太 ● 中学2年生／鹿児島県出身／自宅生



■ラ・サールを志望したきっかけは？

小4の夏、塾に入ったのですが、そのクラスがラ・サール向けで、周囲に影響されて目指すようになりました。小5か小6の時に参加した学校説明会でラ・サールはすごいなと思って、はっきりと目標になりました。

■ラ・サールに来てよかったと感じることは？

試験前になると学校全体が自然と勉強する雰囲気になるところがいいです。日頃は騒がしいけれど、ちゃんとテスト前になるとメリハリがついています。

■部活動をやったよかったことは？

自宅生は先輩と接する機会があまりないので、部活は先輩と知り合える貴重な機会です。小学校ではスポーツは何もしていなかったのですが、中学で部活動を始めて、今では運動に対する苦手意識もなくなりました。また、違うクラスの友達とも友達になりました。

■中1から中2になって変わったことや、中2で印象に残ったこと(行事・授業・部活等)は？

部活動で先輩から先輩と呼ばれたときに、2年生になったという実感が湧きました。勉強面では、古文は高校でやと思っていたのに中2で始まったのは意外でした。また、代数で習った2次関数が物理の放物線に出てきて感動しました。また、地理と地学の学習分野が重なったりして、勉強はいろいろなところで結びついているなと思いました。クラスの雰囲気も、前半は落ち着かなかったけど、後半になると、クラスマッチ前に作戦会議をするなど(ドッジボール)団結力が出てきました。キャンプでは、食事の準備の時、即席料理をふるまうなど、料理の特技を披露する人がいて、日頃知らない一面を知るいい機会になりました。中1のころは今から6年間あると思っていたけど、あっという間に2年過ぎたという感想です。たぶん、毎日の密度が濃くて、充実しているからだと思います。

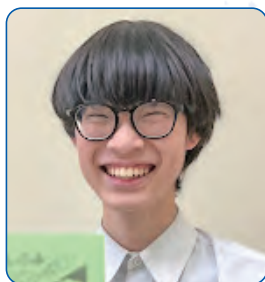
■新入生にメッセージを

OBが書いているブログを読んだりして、ラ・サールの情報を得ていたけど、実際に入ってみると、比べ物にならないくらい充実していました。県外の友人もできて、ほかの地域に目が向きました。例えば、長崎の友達と話す中で、長崎では小さいころから平和教育が充実しているということを知りました。

■卒業までの目標は？

テニス部部長として部活をがんばりたい。勉強もだけど、睡眠もしっかりとりたい。休日にだらけないように、自立して効率よく毎日を過ごしたい。

角 忠聖 ● 中学3年生／福岡県出身／寮生



■ラ・サールを志望した理由は？

秋の学校説明会に参加し、寮を見学する中で、寮の設備に憧れを抱き、寮で生活したいと思ったからです。勉強に集中できそうなThe 勉強スペースみたいな自習室や友達とずっと過ごせる点も良いと思いました。

■学校行事に積極的に取り組んでいる理由は？

もともと行事の運営などが好きで、中1で経験した学校行事がとても楽しく、それを運営する側もきっと楽しいだろうと思い、積極的に参加することにしました。

■生徒会の活動で成長したことは？

クラスマッチの運営などの仕事を行う中で、メンバー同士でお互いにコミュニケーションを取り合うことの大事さを学びました。

■修学旅行実行委員の活動について

勉強とのバランスをうまく取れなかったのが反省点ですが、1つの目標に向かって、全員で作り上げていくのが楽しかったし、やりがいを感じました。

■寮生活について

友達と一緒に過ごせる一方で、友達が誘惑になってしまうこともあります。

しかし一方で、自分は小学生の頃は部屋の片付けなど全くできなかったのですが、他のきちんと整理整頓している人の部屋の様子を見て、「部屋が散らかっているのは嫌だな」と思うようになり、自分も片付けるようになるなど、周囲から学ぶことも多いです。また、寮長として、朝の点呼や義務自習の号令をしたり、後輩に対して寮生活に関するアドバイスをしたりしました。今の寮は先輩・後輩の距離が近く、仲が良かったです。同時に距離感が近くなりすぎることもあり、たまに先輩として注意することもあります。

■ラ・サールに来て良かったと感じたこと

学校の中で様々な行事があり、参加者として受身で楽しむこともできますし、主体的に運営側に参加し、他の人たちを楽しませる側に回ることもできます。

また、男子校だからなのか、人との距離が近く、友達と触れ合う機会がたくさんあって、だからこそ生まれる友情があり、ラ・サールならではの青春を送ることができる。

■卒業までにしたいこと、目標など

勉強と行事の両立が目標。今は行事に少し偏りすぎているので、もっと勉強を頑張っていきたいです。

内田 希空 ●高校1年生／福岡県／寮生



■内田君は福岡県の出身ですが、ラ・サール学園を志望した理由を教えてください

男子校で学んでみたいと思っていました。塾の先生から、親元を離れて寮生活を送る中で深い人間関係が築ける学校だと勧められました。医学部に進みたいと考えていたのも、ラ・サールを志望した理由です。

■親元を離れての寮生活に不安はありませんでしたか

中学寮は8人部屋ですぐに友達ができただけで、寂しかったというより楽しかったのを覚えています。

寮や部活動で、先輩から様々なことを親身に教えてもらいました。

入寮してすぐ熱発したのですが、寮の先生にしっかり対応してもらえたので、安心して生活できるところだと思いました。肩を怪我し通院が続いた時も、病院に送ってもらいました。

■ラ・サールの学校生活で充実しているところを教えてください

色々な人と出会えるチャンスに恵まれていると感じています。そして様々な行事・活動の中で幅広い人間関係が作れます。

様々な分野に優れている、尊敬できる同級生や先輩がたくさんいます。現在ビュグラーズ(吹奏楽部)と英語ディベート部に所属していますが、同じ大学を志望する先輩からは多くの刺激を受けています。

英語ディベート部では、全国大会に向けて、OBの先輩から熱心に指導してもらっています。2月に高校生パラメンタリーディベート世界交流大会(PDWC)に出場しましたが、ハンガリーやモンゴルの高校生と親しくなることができました。

ラ・サールでは講演会が数多く行われています。各分野の一線で活躍している先生方から話が伺え、自分の世界を広げることができます。

東大見学会では、東大で教えているラ・サールOBの先生方に身近な距離で質問でき、ネットでは決して手に入らない情報が得られます。

世界各地で支援を必要としている人々のためのクリスマスバスケット・バザーは、社会の現状を知りどのようなアプローチが可能か考える大切な機会だと思います。

また、授業も面白く、余談として語られる話も含蓄があって好奇心をそそられます。

■将来の夢を教えてください

医師になりたいと考えています。臨床医になるか、研究に取り組むかはまだ決めていませんが、優れた先生方と学生が集まる東京大学理科三類に進んで、たくさんのインスピレーションを得たいと思います。

大場 悠真 ●高校2年生／福岡県／下宿生



■科学の甲子園とは?また、出場しようと思ったきっかけを教えてください

様々な分野の問題をチームで協力して解く大会です。大会当日に出題される問題や、実験の他に、事前に出題される問題をチーム全体で考えるところが普段の学習のスタイルと異なり楽しいです。

■ラ・サールに入って感じることは?

ユーモアあふれる、能力の高い人が大勢いると感じる。そこに魅力を感じて進学したが、予想していたよりも刺激を受ける日々を送ることができている。

■中学の頃、寮生として苦労したことや成長したことは?

はじめは人付き合いに戸惑っていたが、先輩や同級生と過ごす中で他人のことを考えて行動できるようになった。学習面では、中1の頃は苦戦していたが、中学2年の頃から物理が始まり、成績上位をとれるようになってからは得意教科を中心に、不得意教科にも力を入れるようになり、成績は上昇していったと思う。授業の中で吸収することと、主体的に学ぶことが重要だと感じる。

■高校2年生からは週テストが始まったが、どう感じる?

ラ・サールには20分のテストから、2時間のテストまで様々なテストがあるが、どれも復習するきっかけになっている。その中でも週テストは授業と並行して自分で対策をしなければいけないので大変ではあるが、基本的なことを理解ができているか確認できるのでありがたい。

■高2の中で大場プリントが出回っているけど、どんなもの?

先生方と違う立場で友人たちに物理を教えたいと思い、作り始めたプリントです。これまでに7000部は配布していて、テスト直前に大場プリントを見てくれたり、保護者から感謝されることもあったり、やってよかったと感じる。

※学年は2025年度(2025年4月～2026年3月)現在

OB INTERVIEW



江村 仁氏

本校45期 1996年高校卒業

外資系金融機関勤務。ご子息が
中3に在学中



澤田 欣吾氏

本校45期 1996年高校卒業

精神科医。東京大学精神保健支
援室教員

インタビュアー／麻生 善三(本校教諭)

麻生 今日はよろしくお願いします。お二人とも寮生だったので、まず寮での思い出話をお聞かせください。

澤田 寮には全国各地から色々な才能を持つ人が集まってきて、様々なことに興味を持っている人がいるのが楽しかったですね。入学したら、自分よりずっと勉強できる人とか、勉強もできてスポーツもできる人とかもいっぱいいるし、スポーツは得意ではないけれど、そんなことは全然気にせず、自分の好きなことにとことん没頭する人もいます。そういう多様な人たちがいる中でお互いに切磋琢磨しつつ、自分の生き方や立ち位置を自然と考えるようになりました。ラ・サールでは「変わった人を許容する文化」がしっかりあって、多様性をお互いに程よい距離感で尊重しあう雰囲気があります。これは、私が精神科医になる上での大きな土台になったと感じています。

江村 寮生活を通じて自立心を持つとか、規則正しい生活習慣を身につけるなども当たり前としてあるのですが、寮はある意味「社会の縮図」で、人との付き合い方を学びましたね。ラ・サール生って「変わってるね」「芯が強いね」他に、「距離が近いね」って言われることありませんか？うちのOBって、初対面の人にもぐいぐい行くじゃないですか。人との距離の縮め方が早いんですよ。あれは寮生活の鍛錬のおかげかと。あと、寮生活が良かったと思うのは、試験前になると、優秀な先輩とか同級生が早起きして自習室で勉強しているんですよ。

麻生 試験期間に早起きする生徒は今もいますよ。

江村 先輩や同級生そして周りから自然と学ぶ。寮生活で模範となる人物が沢山いましたね。これも寮生活のメリットではないかと思います。

澤田 確かにロールモデルとなる先輩や同級生がたくさんいましたが、一方で、この人はすごすぎて真似するのは無理だとか、この人のこの部分を取り入れるのはまずいかなとか、そういうこともありましたね。そうした多様なモデルが身近にたくさんいるので、自分に何を取り入れるか、中学生ながらかなり考えていましたね。

麻生 では、お二人がこれまで歩んでこられた道について伺いたいと思います。

江村 私は今、インベストメント・バンカーとして、国内や海外の企業クライアントに会社やアセットの買収・売却(M&A)のアドバイスを行う仕事をしています。この仕事を選んだきっかけは、高1の夏休みに、当時ニューヨーク近郊の片田舎にあったラ・サールの兄弟校でのサマースクール(希望者対象)に行ったことに遡ります。週末にマンハッタンに観光に行き、ウォール街、ニューヨーク証券取引所を見学しました。映画にもなりましたが、ライブ感があって、何かかっこいい世界があるなと思いました。その時にマリオットホテルに宿泊しましたが、参加したメンバーで「みんな成功したらまたここに集まろうぜ」みたいなことを生意気に言ってたわけですよね。(笑)このきっかけがなかったら、僕は

金融の世界には入っていなかったかもしれない。ちなみに、その時のメンバーは、弁護士、大学教授、医師とそれぞれの道を進んでおり、いまだに密に繋がっています。

澤田 私は東大の理科二類に入り、医学部健康科学看護学科を卒業しましたが、その後医者になろうと思って、山梨大学医学部に入り直しました。

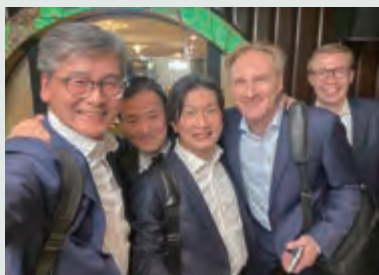
江村 進路やキャリアの大転換は、ラ・サールでは、よく耳にする話ですよね。ラ・サールの人って少し変わってるとか、キャラが立ってるなどと言われることが多いです。そもそも民間企業に就職する割合は高くはないですが、必ずしも大きな組織や企業で出世するようなことをゴールに設定していない。やはり、カトリック教育の社会貢献とか隣人愛とかが根底にあって、その価値観に沿っているかどうかを判断しながら生きている感じがするんですよ。

澤田 それに、ラ・サール生は国際化の流れの中でも本当に自然に対応できます。ホセ先生(元校長)がよくおっしゃっていたんですが「国際化っていうのは外国を知ることじゃなくて、まず自分の国を知ることだ」ってね。私の中では、「ラ・サールという文化」が「自国」になった気がします。つまり、色々な考えの人がいて多様性を重視している、メルティングポットのようなラ・サールという場所が自分の母国や故郷のようなものとして自分の中にある。だから、いろんな外側の世界に行っても、自然に多様性を尊重できるし、一方で自分の強みをしっかり自覚できるようになったと思います。私は己を知り、他を尊重するのが「真の国際性」じゃないかなと思っています。「海外の文化を知る」という方向で国際化を目指す学校もあると思いますが、ラ・サールではそれとは違ったアプローチの国際化がなされていたと思います。生徒が将来確実に海外に出るという前提で、まず自分たちの文化を大事にするというラ・サールの教育は良かった。

江村 一方で、異文化との接触という観点からも、ラ・サールに入ったその日から当たり前のように刷り込まれた部分がありましたよね。メキシコ人修道士の校長先生だったり、英語のネイティブの授業も面白かったですし、クリスマスキャロルをみんなで歌ったりとか。香港ラ・サールとのサッカー親善試合の機会もありました。

澤田 そうやってカトリック教育をしながらカトリックであることを強要しないっていうのも良かったです。だけどカトリックの考え方を尊重しながら取り入れるっていうのはできました。

(後半の話は「学校説明会資料」に続きます)



香港で同僚と食事後に。中央が江村氏



国際学会後のパーティにて。左から2人目が澤田氏

■ ラ・サール生のつとめ ～これが本学園のバックボーンです～

人間の生き方を大きく分けると2つあります。1つは自分のことで頭がいっぱいで、ほかの人のことはどうでもいいという考えのせまい生き方で、もう1つは、ほかの人たちと助け合って、自分の心を広げていく生き方です。

幼い頃は自分を中心にして生きるのがあたりまえですが、だんだんほかの人たちの考え方や立場もわかるようになり、ほかの人たちを受け入れながら、自分も大きく成長していければ、それは立派な生き方といえます。

また、隣人を思いやり、隣人と助け合っていく心がまえが大きくなると、やがてもっと広い社会の大切な問題に心をよせるようになり、苦しんでいる人たちの幸せのために、一生涯働こうという使命感も育ってきます。

この使命感をただの空想に終わらせないで、自分の学問・職業・生活を通してだんだんと実らせていける人は、最も立派な生き方をしているといえます。なぜなら人間全体の幸せと救いを願う神の計画に、この人は参加しているからです。私たちもこういう人の生き方を理想として自分の生き方をだんだんとそれに近づけられるように努力しましょう。

私たちの一生は、くりかえしのできない一度だけのとうといものですから、毎日努力をつづけて、大切な自分を向上させるようにしましょう。

それでは、ここで大切な自分を育てていくために、必要なことを述べます。

(1) 礼儀

社会生活では、お互いの人格を大切にしていることをあらわすために、きちんと挨拶をし、身なりをととのえる必要があります。こういう習慣はできるだけ早いうちに身につけましょう。また心から「有難うございます」と感謝の気持ちをあらわすことは、相手の人に対する当然のつとめであると共にその人の品性のあかしでもあります。(ルカ福音書17章11～19)

(2) 隣人

なかよしの兄弟姉妹は自然にお互いにいたわりあうことを知っています。私たちもほかの人を兄弟姉妹のように敬愛しましょう。(ヨハネ福音書13章34、ヘブライ13章1～3) また、よい友達が欲しいと願いながらただ待っているのではなくて、自分から進んでよい友達になりましょう。(ルカ福音書10章25～37) しかし人を愛する(大切にすること)ということは、強い利己心がひそんでいる私たちにとって決してやさしいことではありません。努力と共に祈りが必要になります。ほかの人を大切にできるような力を神に願うのです。

人間はみんなそれぞれ違う条件のもとに生きています。民族・性・年齢・健康・職業・能力等が違います。しかし、みんな等しく尊い人格なものですから全ての人が尊敬される価値をもっています。このことに気づいて謙虚な態度で人に接し、傲慢さをいましめましょう。(ルカ福音書18章9～14) 身近な家庭・寮・下宿で明るく楽しい人間関係の中で生活できるように、お互いに反省しましょう。自宅生と寮・下宿生も学級や学年の異なる人もよく交流してお互いに学び合ひましょう。病気に苦しむ人・お年寄り・障がいをもつ人々など、不利な立場にある人の人格をとくに大切に、必要な場合は、進んで手を貸しましょう。外国の貧しい生活や飢餓を助ける運動にはできる範囲で参加しましょう。(ヨハネ第一 3章11～18)

(3) 善し悪しの判断と意志の力

何が善いことで、何が悪いことか判断する力は、両親の教育によって幼いころから次第に心の中に育つものですが、成長するにつれてこんどは自分で良心をもっと深めなくてはなりません。

聖書の中で、イエス・キリストは、「心をつくして神を愛し、隣人を自分自身のように愛せよ。」というおきてが人間にとっていちばん大切なおきてであると教えています。(マルコ12章28～34) このおきてを私たちの良心の規準にして自分の生活の反省をしましょう。

また善いことを実行するには意志の力も必要なので、規則的な生活をして怠けぐせをつけないように注意し、ぜいたくをやめて質素・儉約の生活を送りましょう。

(4) 心を育てる

頭のよさや意志のつよさだけを自慢する人はなかなか人間の奥深い処までは行きつきません。美しい自然に感動し、植物や動物を大切にする心がそなわってはじめて人間らしい成長がみられます。(マタイ福音書6章26～30) また自然や芸術の美しさに触れるという大切な経験と共に、さらに人間の美しさに感動できるような謙虚な心も育てましょう。



ミサも行われるお御堂とラ・サールアンスクエア

(5) 学 習

煉瓦積みは単調でつまらない仕事のようにみえても建物の完成という目標をめざして地道に進められます。君たちの勉強もそれと同じ基礎工事のようで将来の大きい目標に向かって進むのです。

しかし勉強する毎日にも波があって楽しくどんどんはかどるときもあり、さっぱりダメな日がつづいて成績も下がってしまうときもありましょう。そういうときは自分で反省するだけでなく、先生に相談して新しい道をみつけましょう。自分の成績がよいかわるいかを判断するには、以前の自分と比べるのがいちばんよいやり方です。友達と競争する人は必ずスポーツマンシップにのっとり明るくやってください。そうすればよい刺激になってお互いに進歩するでしょう。

(6) 健 康

睡眠と食事を十分にきちんととり、毎日汗をかく程度の運動をして気持ちのよい生活を送りましょう。出された食事をできるだけ全部食べ、食べ物の好き嫌いを早くなおしましょう。間食はできるだけおさえ飲み物もなるべく自然の水や牛乳にしましょう。体育部活動にも、事情の許す限り参加するようにすすめます。それは体を丈夫にするだけでなく、人間関係のあり方や規律を学べますし、一生涯つづくような親しい友達を得られる機会にもなるからです。

学習指導について ～各学年での指導目標と、生徒の目標～

本校では、次のような方針に基づいて学習指導を行っています。

- 1 中学1年は、6ヶ年一貫教育の出発点であるので、よりよい学習態度と生活態度の養成を目標に指導する。
- 2 中学2・3年は、学校生活に慣れ過ぎてたるみがちになり易く、また、年齢的にも変動期であるので、生活態度をひきしめつつ、基礎学力の修得を目標に指導する。特に、中学3年は、高校課程の出発点であることに留意して、教科指導・進路指導にあたる。
- 3 高校1年は、中学時代のよい生活習慣の基礎の上に、高校生らしい主体的学習態度を確立し、高校生としての基礎学力を修得することを目標に指導する。また、進路指導に留意する。
- 4 高校2・3年は、よい生活習慣の維持と健全な心身の保持に留意させつつ、特に学力の充実を目標に指導する。また、進路についても十分に指導する。

学習指導上最も大切なことは、授業の効果を上げることです。そのため、予習・復習を徹底するように指導しています。また、定期考査・実力考査以外にも、反復練習や応用力の養成のために平常考査を随時行って、既習事項をよく把握させ、本校の授業内容を修得させるとともに、進路に関しても十分な備えができるように努力しています。加えて追試や補習を随時行い、生徒を取り残さぬよう努めています。

次に、生徒諸君に心がけてもらいたいことを挙げます。

- 1 他人と協調し、お互いに励まし合って、謙虚な気持ちで学習に向かい合う。
- 2 授業を中心に据えて勉学し、ひとりよがりにならないようにする。
- 3 授業中は、精神を集中して聞き、理解につとめ、ノートをとり、また積極的に発表するなど、主体的に参加する。はっきりしない事があれば、すすんで質問する。
- 4 自宅学習は自主的かつ計画的に行い、いいかげんにならないように気をつける。(原則として、中学は正味3時間、高校は正味4時間を基準とする。)
- 5 予習は授業内容の理解のために、復習は学習内容の整理と確認・定着のために不可欠であるから、日々の学習の中で必ず実行する。
- 6 試験の結果は、反省の資料として十分に活用する。
- 7 特定の教科に偏らないで、どの教科も熱心に勉学する。
- 8 どの教科も、中学では60点未満、高校では50点未満にならないように努力する。
- 9 休暇は、与えられた課題だけでなく、主体的な学習のためのよい機会であり、とくに、不得意科目を解消するように努力する。
- 10 余暇を善用し、適度の運動や教養のための読書などにつとめる。

将来、社会の中で有為な人物となることができるように、中学から高校へかけての時期に大きな努力を惜しまず、積極的に、また真剣な気持ちで、学生生活を送ってほしいものです。なお、家庭においても学校まかせにならないように、本人の生活態度や学習状況をよく観察してください。また適宜、学校とも連絡をとってください。

教育課程 ～しっかり鍛え、総合力を伸ばします～

2025年度の入学者

数字は週あたりの授業数です。△は選択科目を示します。

教科	科目	中学 1年	中学 2年	中学 3年	科目	高校1年		高校2年		高校3年	
						A～D	E・F	文系	理系	文系	理系
国語	読解	4	4	3	現 代 の 国 語	7					
	文法	2	2	3	言 語 文 化						
					論 理 国 語			8	6	7	7
					文 学 国 語						
					古 典 探 究						
倫理	倫理	1	1	1	人 間 学	1		1	1	1	1
社会	公民			3	公 共	2		(政経) (倫理)	△2 △1	(政経) (倫理)	△2 △1
	歴史	2	2	1	歴 史 総 合	2					
					日 本 史 探 究			△3	△3	△4	△3
					世 界 史 探 究			△3	△3	△4	△3
	地理	2	2	1	地 理 総 合	2					
					地 理 探 究			△3	△3	△4	△3
数学	代数	3	3	3	数 学 I	7	8	6	7	6	7
	幾何	3	3	3	数 学 II						
					数 学 III						
					数 学 A						
					数 学 B						
					数 学 C						
理科	物理		2	2	物 理	2		△2	△4	△2	△4
	化学	2		2	化 学	2		△2	△4	△2	△4
	生物	2			生 物	2		△2	△4	△2	△4
	地学		2	1	地 学						
保体	保健体育	3	3	3	体 育	3		2	2	3	3
					保 健	1		1	1		
芸術	音楽	1	1	1	音 楽 I	△1	1	△1	△1		
	美術	1	1	1	美 術 I	△1		△1	△1		
	書道				書 道 I	△1		△1	△1		
英語	英語A	5	5	5	英語コミュニケーションⅠ	4					
					英語コミュニケーションⅡ			5	5		
					英語コミュニケーションⅢ					5	5
					論 理 ・ 表 現 I	2					
					論 理 ・ 表 現 II			2	2		
					論 理 ・ 表 現 III					2	2
総合	口語英語	2	2	2	口 語 英 語	1					
技家	技術家庭	2	2	1	家 庭 基 礎			1	1		
情報					情 報 I			2	2		
LHR		1	1	1	L H R	1		1	1	1	1
合計		36	36	37		40	41	40	40	37	37

※口語英語は総合的な学習とする。
 ※「倫理」(宗教)は「特別の教科 道徳」の代わりに実施する。
 ※中1の音楽・美術は年間10時間の加配あり。
 ※読解の時間を利用して書道を、技術家庭の時間を利用して情報を、それぞれ学びます。

※高校1年A～Dは内進者、E・Fは高校からの入学者。
 ※高1の「人間学」は家庭基礎とする。
 ※高1の「口語英語」は総合的な探究とする。
 ※高2・3の「人間学」は総合的な探究とする。

最近三ヶ年の大学入試状況と今春の入試結果の詳細 (一部抜粋)

2026年4月12日現在

国立大学	24年	25年	26年	現役	一浪	二上	医
北海道大学	4	2	6	4	2		2
山形大学		1					
東北大学	1	4	6	3	3		3
筑波大学	3	3	1		1		
東京大学(合計)	37	42	29	18	11		
文科1類	8	7	6	3	3		
文科2類	6	6	2	2			
文科3類	2	4	4	2	2		
理科1類	16	16	8	5	3		
理科2類	4	5	3	2	1		
理科3類	1	4	6	4	2		6
一橋大学	6	4	5	1	3	1	
東京科学大学(旧東工大)	1	1					
東京科学大学(旧医科歯科大)	3	1					
千葉大学		2	2	1		1	1
横浜国立大学	6	5	6	3	3		
山梨大学	1	1	2		1	1	2
新潟大学	1						
金沢大学		1	1			1	1
浜松医科大学	1	1					
名古屋大学	1	1	3	3			3
三重大学	2						
京都大学	6	8	7	4	1	2	2
大阪大学	8	1	2		2		
神戸大学	2	3	3	2	1		2
香川大学	1						
高知大学	1	1					
愛媛大学	1		1	1			
島根大学	1						
広島大学	1	4	3	1	1	1	3
山口大学	2	1	1			1	1
九州大学	25	20	18	7	10	1	12
佐賀大学	4		1		1		1
長崎大学	6	1	2	1	1		2
大分大学		1					
熊本大学	9	5	7	4	3		5
宮崎大学	3	1	3	1	1	1	3
鹿児島大学	15	8	13	9	2	2	9
琉球大学	1		2	2			2
その他の国立大学	4	4	6	2	2	2	1
国立計	157	127	130	67	49	14	61

公立大学	24年	25年	26年	現役	一浪	二上	医
国際教養大学		2	1		1		
名古屋市立大学	1	1					
京都府立医科大学		2					
大阪公立大学	2	3	1			1	
奈良県立医科大学	1	1					
和歌山県立医科大学	1						
その他の公立大学	1	2	4		3	1	
公立計	6	11	6	0	4	2	0

大学校等	24年	25年	26年	現役	一浪	二上	医
防衛大学校	2	1	1		1		
防衛医科大学校	4	7	8	1	6	1	8
その他の大学校等		1					
大学校計	6	9	9	1	7	1	8

私立大学等	24年	25年	26年	現役	一浪	二上	医
自治医科大学	4	1	3	1	1	1	3
国際医療福祉大学	5	5	8	1	5	2	8
慶應義塾大学	25	33	24	8	13	3	3
上智大学	5	2	3	1	2		
中央大学	14	15	9	1	7	1	
東京理科大学	19	18	16	1	14	1	
日本医科大学	2	2	3	1	2		3
明治大学	15	13	16	1	13	2	
早稲田大学	37	29	34	13	18	3	
同志社大学	8	9	9	1	7	1	
立命館大学	9	7	15	1	11	3	
関西医科大学	4	9	2		1	1	2
産業医科大学	6	4	5	2	2	1	5
その他の私立大学等	61	94	72	17	37	18	28
私立等計	214	241	219	49	133	37	52

総計	383	388	364	117	193	54	121
----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----

※欄外の数字は2026年度の医学部医学科の合格者数

2026年度入試進路別合格者数

	法政	経商	文教	理工	薬農	医歯	他	小計
国立	10	11	7	32	7	62	1	130
公立	0	0	2	1	1	1	1	6
大学校	0	0	0	1	0	8	0	9
私立等	45	38	25	49	4	55	3	219
合計	55	49	34	83	12	126	5	364

保護者現住所 ～友達の輪が全国に広がります～

寮や下宿が充実しているラ・サール学園では、県外から多くの生徒が集まっています。学校生活や寮生活を通して育まれた友情の輪は全国に広がります。

都道府県名

中学 / 高校
生徒数 / 生徒数



部活動加入率 ～多くの生徒が楽しく活動しています～

令和7(2025)年度 ラ・サール学園部活動に関する調査

	中 学			高 校			中学合計	高校合計	全体
	1年	2年	3年	1年	2年	3年			
① 生 徒 数	171	169	168	206	210	198	508	614	1122
② 部 活 動・ 同 好 会 参 加 生 徒 数	170	144	141	162	173	140	455	475	930
③部活動・同好会参加率 (① / ②)	99.4%	85.2%	83.9%	78.6%	82.4%	70.7%	89.6%	77.4%	82.9%

入試統計・日程・経費

ラ・サール中学入試統計(過去5年間)

年度	R4年	R5年	R6年	R7年	R8年
募集定員	160	160	160	160	160
受験者	632	846	817	498	509
合格者最高点	267	268	246	242	258
合格者最低点	176	191	163	148	162

中学各科目合格者平均(過去5年間)

科目	満点	R4年	R5年	R6年	R7年	R8年
国語	100	61.1	62.5	46.2	48.2	54.7
算数	100	73.0	79.6	69.1	69.9	72.3
理科	50	32.0	33.4	36.4	29.7	31.9
社会	50	33.5	36.4	34.2	30.1	32.8

ラ・サール高校入試統計(過去5年間)

年度	R4年	R5年	R6年	R7年	R8年
募集定員 (内部進学生を含む)	240	240	240	240	240
受験者	222	288	236	219	214
合格者最高点	337	332	334	322	316
合格者最低点	204	228	200	213	218

高校各科目合格者平均(過去5年間)

科目	満点	R4年	R5年	R6年	R7年	R8年
国語	100	56.1	59.5	58.3	60.1	60.5
数学	100	62.3	67.8	58.6	68.2	65.4
英語	100	57.3	70.6	60.3	60.7	59.1
理科	50	28.2	31.5	30.8	28.1	31.5
社会	50	30.6	28.0	31.8	28.0	29.8

令和9(2027)年度 入試日程

出願期間 2026年12月1日(火)～12月20日(日)
インターネットによる受付(最終日23:59まで)

試験期日 高校は2027年1月23日(土)
中学は2027年1月24日(日)

※今年は高校入試が土曜日、中学入試が日曜日にそれぞれ実施されます

合格発表 2027年1月26日(火)
※個別にお知らせし、校内での掲示はありません

入学手続 2027年1月28日(木)～2月4日(木)
※当日消印有効

受験資格 中学校▶令和9年3月小学校卒業見込の者(男子のみ)(平成26年4月2日～平成27年4月1日出生の者)
高等学校▶令和9年3月中学校卒業見込の者および令和8年3月中学校卒業の者(男子のみ)

令和9(2027)年度入試時間割

高校 1月23日(土)

中学 1月24日(日)

試験場入場	8:35	試験場入場	8:45
校長挨拶	8:50	校長挨拶	9:00
国語(70分)	9:00～10:10	国語(60分)	9:10～10:10
数学(90分)	10:20～11:50	算数(60分)	10:25～11:25
昼食		社会(40分)	11:40～12:20
英語(70分)	12:40～1:50	昼食	
理科(50分)	2:00～2:50	理科(40分)	1:10～1:50
社会(50分)	3:00～3:50	解散予定	2:00
解散予定	4:00		

受験料 20,000円

お問い合わせ先

詳細情報はホームページにて公開しています。
※ホームページはQRコードを読み取るか、「ラ・サール学園」で検索をお願いします。



ラ・サール学園

検索

学校・寮の見学を随時受け付けております。
事前に学園事務室にご連絡ください。

☎ 099-268-3121

経費(令和8年度月額明細)

	授業料	PTA会費	生徒会費	図書費	施設費	その他	合計(月額)	母の会(年額)	備考
中学校	38,500円	1,500円	230円	300円	21,000円	1,600円	63,130円	1,500円	令和8年度入学金 150,000円 学園貯金(卒業時返還) —□ 10,000円
高校			350円			1,900円	63,550円		
寮費(月額) 中学校 74,500円・高校 76,500円 入寮費 100,000円(中学・高校とも)									

※令和9年度の学校納付金は、多少の値上がりが見込まれます。尚、授業料・受験料・入学金・施設費等については、消費税は非課税です。

※経費は年6回、2回、1回払いがあります。

学園について寄せられるご質問

受験生や保護者の皆様からよくいただくご質問をまとめました。

Q 入試は鹿児島でしか行わないのですか？

A はい。鹿児島で1回だけです。それは、受けに来ていただくことで鹿児島や学校の環境や雰囲気を味わい、また、自宅から鹿児島までの時間や距離を実感して、その上で入学してほしいからです。

Q 学校や寮の見学はできますか？

A 10月の入試説明会や8月のオープンスクール、文化祭や体育祭、クリスマスバスケットバザーの時に学校にお越しいただけます。また、ほぼ毎月「ラ・サールツアー」と銘打った見学会を実施しています(所要時間1時間40分前後)。本校ホームページに随時情報がアップされますので、そこからお申し込みをお願いいたします。個別に見学をご希望の場合は、学校の事務室に電話をして、希望の日時を伝えてください(所要時間2時間前後)。調整してできるだけ対応します。お盆と年末年始以外は長期休暇中も見学可能な時期があります。

Q 合格した場合、必ず寮に入れますか？県内でも寮に入れますか？

A 出願時に自宅か寮かの希望を記入していただいております。その際、中学生は寮を希望すれば寮に入れます。高校生は寮希望者が多数の場合、下宿に入る可能性もありますが、寮を希望してやむなく下宿に決まった生徒は、高2から寮に入ることも可能です。鹿児島県内の生徒でも通学に時間がかかるなどの理由があり、出願時に寮を希望すれば入れる場合もあります。

Q 親が学校に行かなければならないのは年何回くらいですか？

A 年2回、6月と11月の学年PTAです。そこで生徒・保護者・担任の三者面談を行います。この他、文化祭・体育祭など学校行事も見学できます。

Q 保護者は寮生とどのように連絡を取れますか？

A 本校では、学内・寮内へスマホ・携帯電話を持ち込まない指導をしております。そのため、寮生は公衆電話で保護者に連絡をします。寮には公衆電話が11台あります。一方、保護者が所定の時間内に寮の事務室に電話なされば、放送で呼び出して寮生につながりますし、寮事務室にFAXをいただければその都度寮生に渡します。
また、学校の情報教室が開放されている時間帯には、パソコンでメールのやりとりもできます。

その他の質問についてもホームページ「FAQーよくある質問ー」に掲載しておりますのでご覧ください。

ラ・サール学園へのアクセス



各地から鹿児島までの所要時間

【新幹線(鹿児島中央駅まで)】東京駅から約7時間、名古屋駅から約5時間、新大阪駅から約4時間、広島駅から約2時間20分、博多駅から約1時間30分

【飛行機(鹿児島空港まで)】羽田空港から約1時間50分、中部国際空港から約1時間30分、伊丹空港・関西空港から約1時間10分、福岡空港から約1時間、那覇空港から約1時間20分

本校までの
公共交通機関

【鹿児島市電でお越しの場合】鹿児島中央駅前電停⇒(市電約30分)⇒谷山電停(終点)下車 徒歩5分

【JRでお越しの場合】鹿児島中央駅⇒(JR指宿枕崎線13分)⇒谷山駅下車 徒歩10分

【バスでお越しの場合】鹿児島空港⇒(空港連絡バス 指宿行50分)⇒谷山電停バス停下車 徒歩1分

【タクシーでお越しの場合】鹿児島空港⇒(空港連絡バス約40分)⇒鹿児島中央駅⇒(タクシー25分)⇒本校



学校法人 ラ・サール学園

ラ・サール高等学校／中学校

〒891-0192 鹿児島県鹿児島市小松原2丁目10-1

TEL.099-268-3121 FAX.099-268-3122

<https://www.lasalle.ed.jp>

ラ・サール学園

檢 索

